

100万市民と仙台市医師会を結ぶ情報誌

アとアとア

配布用です。
ご自由にお持ち
帰りください

特集 認知症

～暮らしながら治療する～



43

仙台市医師会・仙台市医療センター

<http://www.sendai.miyagi.med.or.jp/>

仙台市医師会

検索

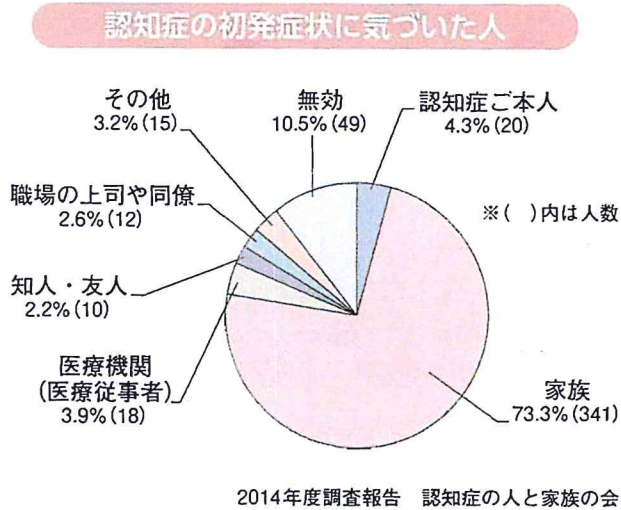
2016年12月

認知症を「診る」「支える」専門家がいます

身近な人が認知症になったら、病院は？ 生活は？ 介護は？
超高齢社会で暮らす私たちにとって、避けては通れない問題への対応を、専門医に聞きました。

始まりは家族の気づき

老年性認知症は、「病識」つまり「物忘れをしているという自覚」がほとんどありません。そのため、様子が違うことに気付くのは、たいていご家族です。「認知症の人と家族の会」が実施したアンケートでも、認知の初発症に気づいたのは



「ご家族」が73%と圧倒的に多く、「ご本人」は4%と、ごくわずかでした。

「病院に連れて行こうとしても拒否される」という問題は、この認識のズレから生じます。ご本人の心理は、「これまで家族のためにいろいろしてきたし、愛されてもきた。でも怒られるようになって、愛されていない気がする」「できない、できないと言われ、プライドが傷つく。イライラする」「(記憶障害のため)周りの結びつきが無く、漠然とした不安や恐怖、孤独を感じる」という状態にあります。

受診を促すためには、下の表を参考に、コミュニケーションの取り方を工夫してみてください。ご本人のプライドを傷つけないことがポイントです。

治療と生活上の留意点

認知症の初期診断は専門医が、継続治療はかかりつけ医が行います。早期に治療を開始すれば、進行を遅らせる効果

受診を勧めるコツ

- ・「脳の健康診断をする」と伝える。
- ・かかりつけ医から「知り合いのよい先生を紹介しましょう」と勧めてもらう。
- ・頭痛やだるさなどがあれば、それを理由に受診を勧める。
- ・付き添い人は、本人と相性のよい家族にする。
- ・受診日は、当日になってから「今日は健康診断の日ですね」と、さりげなく知らせる。事前に伝えると不安になったり、忘れてしまったりする。



仙台西多賀病院
認知症疾患医療センター長
神経内科医長 大泉 英樹 先生

果が高いことがわかっているので、少しでも早く受診されることを勧めます。散歩などの軽い運動、アロマテラピー、芸術療法、音楽療法、レクリエーション

認知症 ～暮らしながら治療する～

などの非薬物療法は、日中の活動量を増やす上でも有効ですが、無理強いはいしないでください。

認知機能が低下すると、さまざまな事件や事故、家族関係の悪化などにつながる危険があります。車を持たない生活を考えたり、いわゆる「終活」の準備なども事前に考えておきたいことです。

普段の生活は、本人の考えやペースに合わせてることを基本としてください。「誤った認識」を持つことがあります。が、間違いを指摘・説明しても納得は得られません。意地になって説得するのは避けましょう。

身体の不調（頻尿・発熱・痛みなど）が、精神的悪化を招くことがあります。体調面も時々確認してください。昼夜逆転にならないよう、睡眠・覚醒のリズムを整えることも大切です。

認知症疾患医療センターの役割

認知症の診断や対応に関し、かかりつけ医から「認知症疾患医療センター」などの専門医が紹介されます。

認知症疾患医療センターとは、厚生労働省が設置を進めている、認知症専門の医療機関のことです。仙台市内には仙台西多賀病院の他、「いずみの杜診療所」「せんだんホスピタル」「東北医科薬科大

学病院」の四つが指定されています。これらの病院は、「初期診断と初期治療」「受診を拒否する認知症の対応」「精神症状の強いケース」などに対応します。

当院は、比較的早期の患者さんを対象に、各種神経心理検査・頭部MRI検査などを行い、総合的な診断をする役割を担っています。診断結果に基づく治療はかかりつけ医に、介護・生活面のフォローは地域包括支援センターにバトンタッチします。途中で精神症状などが悪化した場合や認知症の医療相談は、再度こちらで診療を行います。主治医はあくまでかかりつけの医師です。

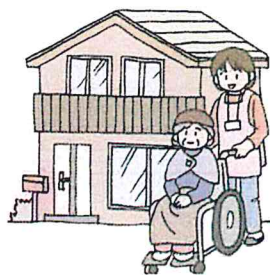
在宅介護サービスの利用を

最期まで住み慣れた環境に暮らしながら、治療と介護を続けるには、さまざまな支援やサービスが必要です。家族だけで頑張ろうとすると、感情的になったり関係がこじれたりします。患者さんの家族には、「介護上手は割り切り上手」「介護は家族より他人」という助言などもしています。

暮らしながら受けられるサービスとしては「小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「複合型サービス」などがあります。下記を参考になさってください。

小規模多機能型居宅介護

「通い(デイサービス)」を中心に利用しながら、必要に応じ「泊まり(ショートステイ)」や「訪問介護」を受けることができるサービス。認知症の症状に合わせ、臨機応変にサービスを選べる。



定期巡回・随時対応型訪問介護看護

1日1～数回の短時間「訪問介護」と「訪問看護」を行い、利用者からの通報にも随時対応し訪問してくれる。



複合型サービス

小規模多機能型居宅介護と訪問介護・看護をミックス。「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」を受けられる。